

1年2組

 みんなが集まるあさがおハウスづくり
 ～ハウス作りを通して「ひと」を感じる～


「あさがおリースのこれから」

1年2組のあさがおハウスにも雪が積もり、冬の装いになりました。そんなある日のこと、給食中にMさんが、「先生。あさがおリースに雪が積もっちゃってるよ」と、教えてくれました。そのとき、あさがおリースはあさがおハウスの中に飾ってありました。あさがおハウスには屋根がついていますが、屋根の隙間や、風で流れこんだ雪で、リースが真っ白になっていたのです。そこで、リースの雪を払いに行くことにしました。子どもたちは自分のリースを手にとると、まるでお兄ちゃん、お姉ちゃんかのように、優しく雪を払



てあげます。Tさんは、「あー。冷たかったね」と言いながら雪を落としてあげていました。「Tさん、優しいね」と私が声をかけると、Tさんは、「だって、朝顔さんは今まで色水やこすりぞめをさせてくれた大切な友だちだから」と語ってくれました。Tさんは、今まで大切に育ててきた朝顔さんに対して、感謝の気持ちを伝えなかったのでしょうか。思い出をたくさんくれた大切な友だちに恩返しをしたくなったのだと思います。このような姿に至ったのは、春から朝顔さんと共に生活した日々があったからだと思います。毎日水をあげ、

名前を付けて大切にお世話をしてきたからこそ、朝顔さんが大切な友だちになっていったのではないのでしょうか。

子どもたちが朝顔さんに寄せる思いの強さは、私の想像をはるかに超えています。それほど、約7カ月間の朝顔さんとのくらしが、子どもたちにとってかけがえのないものだったのでしょうか。芽が出たときの喜び、ツルが伸びすぎて困った夏の日、初めて花が咲いた時の感動、種を残してくれた朝顔さんへの感謝など、朝顔さんから多くのことを学び、感じてきました。これらの経験が、今の子どもたちの意思決定につながっているのだと思います。

「ようやく夢が叶ったよ」

1年間かけて建ててきたあさがおハウス。休み時間になると、あさがおハウスの周りで鬼ごっこをしたり、2階に上って日向ぼっこをしたり、1階でけん玉をして遊んだり、2組の子どもたちにとっての遊び場になっています。さらに、外掃除の子どもたちがあさがおハウスの中をほうきで掃いたり、雪が降った日は雪かきで雪下ろしをしたりと、あさがおハウスが2組のくらしの一部になっています。ある日の朝、Mさんが私のところに来て、「先生、あさがおハウスってこの後どうするの」と尋ねてきました。近くにいたKさんが、「来年は1年生が来るから、引っ越さないよ」と言いました。それを聞いたMさんは真っ先に、「2組みんなで給食を食べたい」と言いました。あさがおハウスで給食を食べるというのは、あさがおハウスを建てている時からみんなでやりたいことのうちの1つでした。さらに、私が、「副校長先生に聞いてみるね」と言うと、Mさんや周りにいた子どもたちは、廊下へ向かって歩き出しました。「どこへ行くのだろう」と思

っていると、Mさんたちは副校長先生を連れてきました。そして、「あさがおハウスで給食を食べてもいいですか」と直談判したのです。副校長先生が優しく、「いいですよ」と言ってくださると、Mさんたちは大喜びで教室に戻っていきました。



そうして決まったあさがおハウスでの給食。しかし、雨、雪により、なかなか外に出られない日が続きました。子どもたちは、毎日、「今日は食べられる？」と聞きに来ていました。そして2月29日。ようやく、あさがおハウスで給食を食べられる日がやってきました。それを知った子どもたちは両手を上げて、「やったー！」と大喜び。いつにもまして給食の準備にも熱が入り、あっという間に給食の準備が整いました。そして、念願だったあさがおハウスでの給食。Hさんは、「あさがおハウスで食べる給食は最高だ」、Sさんは、「なんだかいつもより給食がおいしく感じる」と、嬉しそうに給食を食べる子どもたちの姿がありました。給食を食べ終わると、Tさんが、「今日はあさがおハウスで給食を食べられて嬉しかった。お家でてるてる坊主をつくったから晴れたのかも」と嬉しそうに語りました。Rさんは満面の笑みで私のところへやってきて、「私の夢がようやく叶ったよ」と言いました。

副校長先生に直談判をするMさん。お家でてるてる坊主をつくり、窓際に飾ったというTさん。二人の姿を観て、子どもたちの行動力に驚かされました。子どもたちが動き出したのは、あさがおハウスで給食を食べたいという願いが本物であったからではないでしょうか。思いや願いをもち、自分たちの手で時間をかけてつくってきたあさがおハウスだからこそ、子どもたちは思わず動き出したのではないかと感じるのです。私たちの願いを、私たちで実現させていく。そんな子どもたちの姿に、新たな育ちを感じた出来事でした。

「ありがとうあさがおハウス」

3月1日、来年度入学する1年生が気持ちよく教室を使えるように、また、来年度自分たちがハウスを建てる時の材料を確保するために、あさがおハウスの解体を始めました。

すると、下をうつむいてなかなか作業に取り掛からないSさんの姿がありました。理由を尋ねてみると、「なんかウルウルしちゃう。もうこのあさがおハウスと全く同じハウスは作れないと思うから」と涙ながらに答えました。1年間、みんなで話し合い、様々な人と協力して建ててきたあさがおハウス。あさがおハウスを建てた順番に解体していくと、頭がつぶれていたり、釘の先が飛び出していたりと、釘打ちに苦戦していた子どもたちの姿が浮かび上がります。子どもたちもきっと、解体していく中で自分たちの成長を感じたのではないのでしょうか。

保護者の方にもお手伝いいただき、全ての解体が終わると、Rさんが、「ぼくはちょっと悲しいけど、うれしい。だって、次はもっと立派なハウスを建てられると思うから」と伝えてくれました。解体を通して、この1年間の学びを捉え、来年度への期待を抱く子どもたち。来年度はどんな学びをしていくのでしょうか。



ありがとう！
あさがおハウス